



フジタガンカニュース

Vol.115 2020.4.21



色覚検査と色覚異常について①

最近新型コロナウイルス肺炎に関連した自粛要請が続く毎日です。感染症を抑制できているかどうかの判定というのは難しく、ウイルスの感染には潜伏期がありますので…自粛の効果は約2週間遅れて結果が出る事になります。現在4/7の緊急事態宣言から14日経過しました。「感染抑制の指標が何か？」というのは難しいのですが、「全国の1日の新規感染者数(厚生労働省発表)」は先週後半からはやや減少傾向に転じています。(これも評価が難しいのですが、医療機関への受診が週末は少ないこと等、曜日ごとに患者数が増える事実を考慮して同一曜日での新規患者数をたどってみると先週後半からは減少に転じています)決して新規の患者がゼロになりどんどん感染患者の総数が減っている訳ではありませんが、少なからず外出自粛の効果は出てきていると考えて良いのではないかと考えています。

また、八王子市内の医療機関についてですが…八王子医療センターと東海大八王子病院の眼科では緊急でない予定手術については原則延期、八王子医療センターでは外来診療も制限しています(緊急の患者さんは紹介状を持参の上で受診して診察という方針)。新型コロナウイルス感染症の患者さんへの対応を優先する目的です、ご理解頂けたらと思います。

さて今回のフジタガンカニュースは、前号の続いて日本眼科医会のホームページに掲載されている「色覚異常を理解する為に」という文章を掲載したいと思います。

https://www.gankaikai.or.jp/colorvision/post_9.html

@@

色の見え方には個人差があるのですか？

私たちは、それぞれ顔や考え方が異なっているように、色の見え方や感じ方も同じではなく個人差があります。その個人差が大多数の人と比べて大きく、色覚の検査で異なった結果を示す人は、医学的に「色覚異常」と診断されます。つまり「色覚異常」とは色覚の個人差を表す医学的名称といえます。



「色覚異常」とは「色盲」のことですか？

「先天性の色覚異常」は、「色盲」ともいわれてきましたが、「色盲」という言葉は、「色がまったく分からない」と誤解されやすいため適切な言葉とはいえません。しかし、学術的に正しく、かつ、誰にも精神的負担を感じさせない新しい用語をまだ生み出せていないのが現状です。



通常、先天性の色覚異常というと「先天赤緑色覚異常」をさしています。この場合、色の見え方や感じ方は正常色覚と異なりますが、白黒の色世界では決してありません。正常色覚者とは異なった色世界を感受しているといえます。

@@

今月のフジタガンカニュースはここまで、続きの引用は次回掲載致します。

冒頭でも述べさせて頂きましたが、感染の拡大に対する外出自粛の効果は出てきていると思います。生活上の事、経済的な事、もちろん健康面での事など皆さん不安の多い毎日かと存じます。現状では5/6が一つの目安となる日にちかと思えます。なんとか頑張って乗り切りましょう。

今月のお知らせ

現在、感染予防目的でマスクを着用している方が沢山いらっしゃいます。しかし、眼科診察時にはあえてマスクを外される方も多くあります(外すのがマナーと思われるようです)。診察時にマスクを外してしまうと「感染の拡大を阻止する」目的が失われます。基本的な眼科の診察にマスク着用は支障ありません。必要な場合はこちらから外すようにお願いをしますので、**眼科診察時には「絶対にマスクを外さない」**ようにお願い致します。



<http://www.fujita-ganka.com>

FUJITA-EYE-CLINIC
 **藤田眼科**
 エフ・ビジョン(コンタクトレンズ販売)
 **F-Vision**

☎ **042**
(645)
0575
 ☎ **042**
(642)
2911